答申１

写

令和３年（2021 年）５月 13 日

横須賀市教育委員会
教育長　新倉　聡　様

学力向上推進委員会
委員長　笠原　陽子

学力向上推進プランにおける目標①から⑤に係る検証について（答申）

令和２年 12 月 18 日付横教指第 45 号で本委員会が受けた諮問について、別紙のとおり答申します。

教育委員会
教育指導課
収 -3.5.13 受
第　　号

答　申

学力向上推進委員会に諮問された事項は、「学力向上推進プランにおける目標①から⑤に係る検証について」であった。諮問の理由としては、次のとおりであった。

・平成 30 年に策定した現在の学力向上推進プラン（以下、「推進プラン」という。）が４年計画の３年目を迎えており、推進プランに設定されている目標の５項目について検証し、その成果や課題をとらえる必要があること。

・現在の推進プランの成果や課題をとらえ、次期プランの新たな目標の方向性を検討する必要があること。

そこで、本委員会では、この諮問を受け、目標①から⑤の状況について、【資料１】のとおり分析をした。

その分析から考察し、次期学力向上推進プランの目標の方向性としては、次のことに留意して設定される必要があると考える。

1　目標①は達成に至っていないため、引き続き分析を行っていくこと。その際、各学校がデータに基づいて自校の成果や課題を話し合えるよう、改善の視点を明らかにすること。

2　目標②はおおむね達成に向かって推移しているが、同一集団の経年変化を観察していくことは指導の改善に当たって重要であるため、新たな目標指標を設定した上で、継続していくこと。

3　目標③は、各校に一定の割合でＡ層の児童生徒が存在していることが明らかであり、その割合の改善に関しては、今後の学力向上の取組において大変重要であると考える。Ａ層の児童生徒への個別支援的な取組を継続すると共に、全ての児童生徒が授業の内容を理解し、他者の意見をふまえて自分の考えを表現したり、一歩進んだ課題に向かっていこうとしたりするような、授業に主体的な態度で臨むことができる指導方法の工夫・改善（一人一台端末の活用を含む）に努め、授業の質の向上を目指し、結果としてＡ層の割合の減少を目指すこと。

4　目標④は授業において自己を生かしたり、他者に対して共感したりしながら学びを深めることをとおして、自己肯定感の醸成を図るようにすること。

また、その姿をとらえるため、質問調査項目の「自分にはいいところがあると思うか」を、「自分のことを大切に思うことができるか」などの内容に再設定すること。また、自己肯定感だけでなく、学びに向かう力を醸成する視点からも取組を進めること。そのために、学びに対してあきらめずに粘り強く取り組もうとする力、うまくいかないことも工夫して達成しようとする力などの、非認知能力に関わる質問調査項目を設定すること。さらに、目標③とのつながりをとらえるために、Ａ層の児童生徒に関する指標を設定すること。

5　目標⑤は質問調査項目の「学級会で意見を出しやすいか」が、授業に対して主体的な態度で臨めているかどうかについての指標となることから、この項目を中心にしていくこと。

また、学級会に限定せず、学校生活全体における内容に再設定すること。